

ベニバナイチヤクソウ *Pyrola asarifolia* Michx. subsp. *incarinata* (DC.) A.E.Murray

【評価理由】

温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、しかも「最近見られなくなった」と報告されているが、残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A類と評価する。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。葉は 3~5 個束生し、3~5cm の柄があり、葉身は円形または広楕円形、長さ 3~4.5cm、幅 2~3.5cm、先端は円~鈍頭、辺縁には目立たない細かな鋸歯があり、表面に光沢がある。花期は 6~8 月、高さ 15~25cm の花茎を伸ばし、その上部に 8~15 個の花を総状につける。花茎は帯紅色で、1~3 枚の鱗片葉がある。花は肉紅色で直径 12~15mm、がく片は広披針形または狭卵形で長さ 2~3mm である。花柱は湾曲する。果実は蒴果で、直径約 7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 45279, 1993-7-11)、2 豊根 (小林 37465, 1992-5-31)。愛知県では東北端に僅かに見られるだけであった。

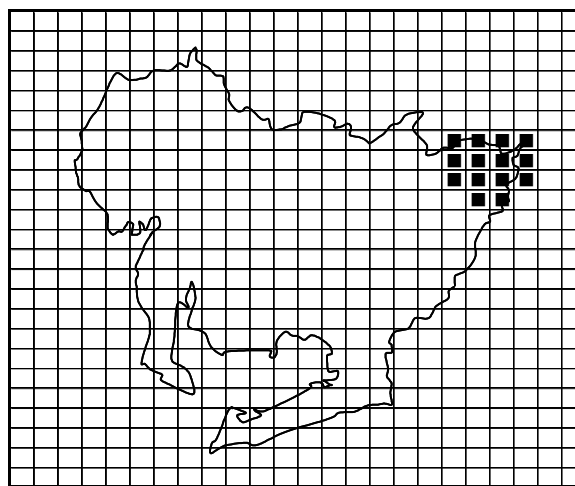
【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北) に生育する。長野県まで行けば普通に見られる植物である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア、カムチャッカ、アラスカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生じ、通常群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落があるだけで、生育状態ももともとあまりよくなかった。小林 (2006) は「・・・最近見られなくなってしまった。おそらくニホンジカの食害によるものと思われる」と述べている。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.61. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.237, 平草本 III p.5, 平新版 4 p.229.